

親愛なるマレーク・ウエロニカさま

六月に入り、ころらイタリアでは真夏のような日々が続いておられます。マレーク様はお元気でいらっしやいますでしょうか。

お手紙のお返事をいただけて大変嬉しく思っております。

受け取った時は感動で胸がいっぱいになりました。素敵なお字も添付してくださってありがとうございます。思わず「ピッポがマレークさんのところにいる！」と叫んでしまいました。た。(ピッポとは私の絵のカエルのことですよ。)そして陶器のお皿の共通点があることを知り、さらに嬉しくなりました。

いました。マレークさんもキシユゴムボシユでワークシヨツ
フをさっていたのですね。そこですでに私の絵に出会ってい
たとは驚きでした。不思議な縁を感じます。

最近、息子は「ラチとライオン」の絵本にも興味を持ちだ
しました。なぜかというところ、この絵本には息子の大好きなヘ
リコプターがでてくるからです。ちなみに息子はヘリコプタ
ーのことを「こぶた」と言います。そしてなぜか最初のペー
ジの建物のことを「バス！」と言って譲りません。「ラチと
ライオン」はアニメ化もされたのですね。インドで一等賞を

取ったとは、素晴らしいです。ラチはきつと今でもヘリコプターで世界中の国を飛び回っているのでしょうね。

私の絵本もささやかながら何ヶ国かの絵本に訳されているのですが、その国の言葉が分からずとも、文化や習慣が違っていても、絵でコミュニケーションが取れて想いを伝えることができるといふのは、まるで魔法のようだと感じることがあります。例えばブルンミをじつと眺めている息子は、話の内容がまだわかる年齢ではありませんが、間違いなく何かを感じています。もしどこかの国の子供がこうやって私の絵本

を眺め、何かを感じてくれていたら感無量です。私が三十年以上前にマレークさんに出会ったように、世界中の子供達もこうやって世界中の作家さんたちに日々出会っているのですね。つくづく絵本は世界共通語だと感じます。

また、絵本作家になってからさまざまな国籍の子供達とワークショップを通して交流する機会もいただきました。ワークショップではよく日本の伝統的な遊び「折り紙」を子供達に教えるのですが、みんな楽しみながら一生懸命に折ってくれます。

(折り紙とは正方形の色紙を折って動物や生活道具

などを作る遊びです。私の絵本に興味を持った子供達が、日本の文化に少しでも触れる機会があるのはとても喜ばしいことです。それがきっかけで日本の文化に興味を持ってくれるかもしれないですね。「本を読む」ということが他国の文化を知ることにつながっていくのは素敵なことです。

私はまだまだ駆け出しの絵本作家でこの先自分のやりたいことを実現できるのだろうか、伝えたいことはちゃんと伝わっているのだろうかと不安になることが時々あります。でも、マレークさんがお元気に現役で制作活動されていて、さらに、

「まだやりたいことがたくさんある」という言葉を読んで、私も小さいことで悩まずもっと頑張らねば！と元気をいただいたきました。生涯現役でいらっしやるとは本当に素晴らしいことですね。それは私の人生の大きな目標の一つでもあります。長く制作活動が続けていく秘訣などはありますか？

現在、ユーモアたっぷりの六匹うさぎの絵本を作っています。息子が生まれてからは、生活が百八十度変わりました。

それはまるで、子供の頃に経験したことを、再び体験しているようです。大人になってからどれだけのことを見過ごして、

忘れてしまったのかということに気がされました。次回はそのからヒントを得た物語を作ってみたいと考えています。

最後になりましたが、マレークさんが素敵なお写真を送ってくださったので、私からも写真を送らせていただきます。息子が大好きなマレークさんの絵本を読んでいるところです。ブルンミの新刊が出るとのこと、とても楽しみです。息子へのクリスマスプレゼントが一つ決まりました。

イタリマではワクチン接種が進み、以前のような日常生活に戻りつつあります。ハンガリーでも規制緩和が進んでいる

と聞きました。今年も暑い夏がやってきそうですが、
お身体に気をつけてお元気で過ごしてください。

令和三年六月十日

敬具

刀根 里衣

